

## 別紙（災害時連携病院申請に向けた補足説明資料）

## 1 病院の概要と実績

- (1) 【名称】医療法人誠壽会 上福岡総合病院
- (2) 【開設日】昭和 37 年 2 月 9 日
- (3) 【病床数】284 床
- (4) 【標榜科】内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、神経内科、人工透析内科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、頭頸部外科、ペインクリニック科小児科、皮フ科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、内視鏡内科、内視鏡外科、形成外科、リウマチ科、肛門外科

【施設認定】日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本外科学会専門医制度修練施設（指定）、日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本整形外科学会専門医制度認定研修施設日本手外科学会認定研修施設（基幹）

## (5) 【その他特徴や実績等】

ふじみ野市の中核病院です。当院の特徴として、内科・外科・整形外科・乳腺外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・眼科・産婦人科と併せて、歯科口腔外科を院内併設しており、様々な疾患に対応しています。二次救急として外来、急性期病棟での診療が中心となりますが、療養型病棟も併設しております。法人内に介護老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、健診センターを有し、急性期から慢性期の医療、そして介護・在宅支援機能を備え、地域の患者様のニーズに幅広く対応できる環境を整えております。地域住民の皆様が安心して生活できるように努めております。また、看護学校を併設しており看護師の育成にも力を入れております。

## 2 災害時連携病院を希望する理由

当院は平時から救急医療や地域医療に携わる中で、多様な患者対応や緊急時の判断力を培って参りました。この経験を生かし、災害時においても地域に必要とされる医療提供が出来るよう責任をもって対応していきたいと考え希望致します。

## 別添1

## 埼玉県災害時連携病院施設確認票

施設管理者	井上 達夫
担当者所属	事務
担当者名	竹田 幸彦
TEL/FAX(平常時)	0492660111/0492663469
TEL/FAX(緊急時)	0492660111/0492663469

事業区分	災害時連携病院
------	---------

指定予定年度	2025 年度
--------	---------

開設者	施設名	所在地
井上 達夫	医療法人誠壽会 上福岡総合病院	〒356-0011 埼玉県ふじみ野市福岡931 TEL 049-266-0111

## 1. 施設・設備の概要

延面積	管理棟 部門	サービス棟 部門	病棟部門						診療 部門	その他	合計
			一般	療養	結核	精神	感染症	計			
	518.43㎡		5164.08㎡ 239床	645.81㎡ 45床	- 床	- 床	- 床	5809.89㎡ 284床	㎡	㎡	㎡
耐震 構造	有		有	有					有	有	

標榜診療科名	臨床研修指定病院指定の有無
内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、神経内科、人工透析内科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、頭頸部外科、ペインクリニック科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、内視鏡内科、内視鏡外科、形成外科、リウマチ科、肛門外科	無
	救急告示の有無
	有 (R5年9月12日告示)
年の救急患者受入数 (うち救急車による搬送数)	942 人 (464人)
	1. 外来診療のみ : 153673 人 2. 入院(一般病棟) : 57180 人 3. 入院(ICU/CCUまたは救命救急センター) : 0 人 4. 死亡 : 120 人

建物建築年度	備蓄倉庫の有無	自家発電装置の対応時間 (設置場所)	受水槽対応時間 (設置場所)
東館 1988年度 西館 2016年度	有 (20㎡)	136KVA 72時間(3日) (西館屋上)	27㎡ 72時間(3日) (西・東館横)

診療予備室について			
会議室(西館2階)	75.91㎡(10人)	(参考 災害拠点病院指定要件一部抜粋) 災害時における患者の多数発生時(入院患者については通常時の2倍、外来患者については通常時の5倍程度を想定)に対応可能なスペース及び簡易ベッド等の備蓄スペースを有することが望ましい。	
ダイルーム(西館3階)	60.5㎡(6人)		
ダイルーム(西館4階)	60.5㎡(6人)	通常時対応数	入院患者 200人 外来患者 500人
合計	196.91㎡(24人)	多数患者発生時対応数	入院患者 290人 外来患者 600人

広域災害救急医療情報システム(EMIS) 入力担当の有無	広域災害救急医療情報システム(EMIS) 連絡先メールアドレス登録の有無
主担当(有) 第2担当(有) 第3担当(有)	代表(有) 担当(有) 休日夜間(有)

医療派遣チーム(DMAT等)受入対応室について	
講義室(東館5階)	77.4㎡(16人)

ヘリポートの状況 (参考)		
ヘリポートの有無	無	(場所: ) (所有者: )
病院敷地	内・外	(病院までの距離: km)
ヘリポートとの間の移動手段	有・無	救急車・ドクターカー・ストレッチャー・その他( )
(地表・屋上)		ヘリポートの運用状況
公共用 (整備年度 年度)		・使用したことがある。(実態・訓練)
非公共用 (整備年度 年度)		・使用したことがない。
緊急時 (整備年度 年度)		・使用したことがないが使用できる状態にある。
(広さ:長さ m×幅 m)		夜間照明の有無 : 有・無 夜間離発着の可否 : 可・否

派遣車輛の保有状況			優先協定等の締結状況	
派遣車輛の有無	保有数	車種・区分	災害時の診療に必要な水	無
有	1	救急車	食料・飲料水・医薬品等	無

災害時救命医療に必要な医療機器等の保有状況			災害時救命医療に必要な備品の保有状況	
医療機器等名	保有数	5164.08㎡		保有数
携帯用人工蘇生器	0	0	応急用医薬品(平常時の3日分)	1
集団災害用酸素吸入器	0	0	簡易ベッド	0
ショックパンツ	0	0	テント	0
熱傷用ベッド	0	0	担架	3
CT	1	1	簡易トイレ	40
移動用X線装置	2	2	投光器	1
人工呼吸器	3	0	患者搬送車(救急車タイプ)	1
患者監視装置	7	0	食料、水、生活用品等(3日分)	1
人工透析装置	20	2	衛星電話	0
除細動器	2	2	トリアージタグ	100
その他			EMIS入力用端末	0
			その他	

災害時の対応機能	体制等内容
中等症患者及び容態の安定化した重症患者への対応機能	診察室 (ICU等): 2床 医療従事者: 平常時 (医師 1人、看護師 4人) 災害時 (医師 1人、看護師 1人) 受け入れ患者可能数: 2 その他(特記事項):
多発外傷、挫滅症候群、広範囲熱傷等の重篤救急患者への対応機能	診察室 (ICU等): 0床 医療従事者: 平常時 (医師 人、看護師 人) 災害時 (医師 人、看護師 人) 受け入れ患者可能数: その他(特記事項):
デイルーム(西館4階) 患者搬送への対応機能	患者搬送車の確保体制: 1台 患者搬送スタッフ体制: 医師 0人、看護師 1人、運転手 1人 その他(1人) その他(特記事項): 患者の状態により医師の乗車あり
救護チームの派遣機能	派遣車輛の確保体制: 普通車1台 派遣スタッフ体制: 医師 1人、看護師 2人 その他(1人) その他(特記事項):

2. その他の参考事項

勤務医師数	地域対象人口	過去の国庫補助の有無
26	11万2千人	無
1. 業務継続計画(BCP)の有無		(作成中)
2. 病院内での防災訓練の実施		(あり:年2回)
3. BCPに基づく研修・訓練の実施		(なし)
4. 災害拠点病院等との連携訓練		(なし)
5. 災害時保健医療調整会議や地域防災会議等への参加		(なし)
6. 災害研修会等への参加		(なし)

(注) 当該医療機関の建物配置図(平面図)を添付すること。

## 埼玉県災害時連携病院の指定要件の充足状況

災害時連携病院	確認事項	充足状況
<b>1. 運営について</b>		
1 災害拠点病院のある二次保健医療圏においては、災害拠点病院と連携し中等症患者や容態の安定化した重症患者の受入ができること。	災害拠点病院と連携訓練を行い、中等症患者の受入体制を整える予定。	
1 災害拠点病院のない二次保健医療圏においては、他の医療機関と連携しながら重症患者に対応するとともに、中等症患者や容態の安定化した重症患者の受入ができること。	-	-
2(1)ア 災害発生時に被災地内の傷病者等の受入及び搬出を行うことが可能な体制を有すること。（災害時の医療について相当の知識及び経験を有すること。）	災害時に職員を参集するよう取り決める予定 救急車を1台所有している為、受入・搬出が可能な体制を整える予定。	
2(1)イ 被災想定や連携する災害拠点病院の災害時の患者受入能力等、地域の実情に応じた患者受入体制の充実に努めること。	ふじみ野市の防災計画や災害拠点病院との訓練等により、求められる患者受入体制がどの程度か把握していく予定。	
2(1)ウ 埼玉地域DMAT（以下「地域DMAT」という。）を1チーム保有していること。	DMAT養成研修を受講し、埼玉県地域DMATを1隊有するよう整える予定。	
2(1)エ 災害発生時に他の医療機関のDMATや医療チームの支援を受け入れる際の待機場所や対応の担当者を定めておく等の体制を整えていること。	東館5階に待機場所を設置 対応については当院事務職員が対応する。	○
2(1)オ 第二次救急医療機関であること。	二次救急医療機関である。	○
2(1)カ 被災後、早期に診療機能を回復できるよう、業務継続計画を整備していること。	11月上旬までに整備予定。	
2(1)キ 整備された業務継続計画（BCP）に基づき、被災した状況を想定した研修及び訓練を実施すること。	BCP策定後、訓練を実施予定。	
2(1)ク 地域の災害拠点病院等との定期的な連携訓練を実施すること。	毎年1回、地域の災害拠点病院等またふじみ野市、東入間医師会、朝霞保健所と協議し大規模災害への対応訓練に参加していく予定。	

災害時連携病院	確認事項	充足状況
<b>2. 施設について</b>		
2 (2) ア 病棟や診療棟等救急診療に必要な部門を設けること。（中等症程度の外傷患者に対応できる施設を有すること。）	診療に必要な部門を設けている。 （ER 2床等）	○
2 (2) エ 災害時に医療機関としての機能を維持するため自家発電機等を保有していること。	発電機容量：350KVA 設置場所：西館屋上 燃料備蓄（A重油）：1950リットル 災害時優先協定を締結予定。	○
2 (2) カ 平時より医療機関の基本的な機能を維持するために必要な設備について、自家発電機等から電源の確保が行われていることや、非常時に使用可能なことを検証しておくこと。	業者と当院事務職員により、発電機点検及び変電設備年次点検を実施している。	○
2 (2) キ 適切な容量の受水槽の保有、停電時にも使用可能な井戸設備の整備、優先的な給水協定の締結等により、災害時の診療に必要な水を確保すること。	受水槽：81m <sup>3</sup> 診療に必要な水を3日間保有している。 ふじみ野市へ災害時優先供給先としてもらえるよう協議予定。	○
<b>3. 設備について</b>		
2 (2) ク 衛星電話などの、衛星通信を用いた通信手段を保有していること。	衛星電話（ネット接続可能）を整備予定。	
2 (2) コ 広域災害救急医療情報システム（EMIS）に参加し、災害時に情報を入力する体制を整えておくこと。（情報を入力する複数の担当者を事前に定めておき、入力内容や操作方法などの研修・訓練を行うておくこと。）	複数名を担当者に選任している。 入力研修をしている。 県のEMIS入力訓練にも参加している。	○
2 (2) ス トリアージ・タグを有すること。	保有（100枚）	○
<b>4. その他</b>		
2 (3) ア 食料、飲料水、医薬品等について、流通を通じて適切に供給されるまでに必要な量として、3日分程度を備蓄しておくこと。	3日分備蓄済み。	○

## その他の状況

災害時連携病院	確認事項	充足状況
<b>2. 施設について</b>		
2 (2) イ 災害時における患者の多数発生時に対応可能なスペース及び簡易ベッド等の備蓄スペースを有することが望ましいこと。	会議室等を診療予備室とすることで整備している。 簡易ベッド等の備蓄については東館5階講義室にスペースがある。	○
2 (2) ウ 診療機能を有する施設及び医療機関としての機能を維持するために必要な全ての施設が耐震構造を有することが望ましいこと。	主な診療機能（手術室・救急室等）を有する建物は耐震構造を有している。	○
2 (2) オ 自家発電機等の設置場所については、地域のハザードマップ等を参考にして検討することが望ましいこと。	発電機は屋上に設置しており、洪水の被害は受けない。ポンプ室（重油）は止水版対応としている。	○
<b>3. 設備について</b>		
2 (2) ケ 災害時における通信手段を保有していることが望ましいこと。	衛星電話（ネット接続可能）を整備予定。	
2 (2) サ 患者の多数発生時用の簡易ベッドを有することが望ましいこと。	簡易ベッドを整備予定。	
2 (2) シ 被災地における自己完結型の医療に対応出来る携行式の応急用医療資器材、応急用医薬品、テント、発電機、飲料水、食料、生活用品等を有することが望ましいこと。	整備予定。	
<b>4. その他</b>		
2 (3) イ 備蓄については、災害時に多数の患者が来院することや職員が帰宅困難となることを想定しておくことが望ましいこと。	備蓄は3日分保有している。	○
2 (3) ウ 食料、飲料水、医薬品、燃料等について、地域の関係団体・業者との協定の締結により、災害時に優先的に供給される体制を整えておくことが望ましいこと。	食料、飲料水、医薬品、燃料等について、地域の関係団体・業者との優先協定締結予定。	
2 (3) エ 地域DMATや医療チームの派遣に必要な車輛を有することが望ましいこと。	救急車1台、普通車1台	○

※望ましい要件について充足していない場合は、代替手段等を記入してください。

1 日 時 令和7年8月20日（水）15時00分～17時00分

2 主な内容

○ 災害時の体制について

理事長を中心に指揮を執る。5割～6割の職員が近隣に住んでいるため、参集次第、発災後直の初期対応や傷病者の受入体制の準備を速やかに実施する。また、BCPを11月中までに整備し、その中で職員の参集について取り決めを行う。

○ 近隣の災害拠点病院との関係について

同医療圏の災害拠点病院である独立行政法人国立病院機構埼玉病院と今後協力体制を構築していく予定である。

また、ふじみ野市、東入間医師会、朝霞保健所と協議し大規模災害への対応訓練を参加していく予定である。

○ 施設・設備について

非常用自家発電設備、受水槽をそれぞれ整備しており、災害時に必要となる電力・水を十分確保している。

なお、災害時連携病院の指定を受けた際は、燃料や給水等について、優先供給してもらえるよう、協定を締結する方向で調整している。

○ その他

ふじみ野市の中核病院を担っている。病床数は284床である。

二次救急として外来、急性期病棟での診療が中心としているものの、療養型病棟も併設しており、平時から救急医療や地域医療に携わる中で、多様な患者対応や緊急時の判断力を培っている。

63年間この地域で開業しており、在宅医療も実施しているため、災害になれば地域住民が頼ってくるという気概を持って、地域に必要とされる医療提供が出来るよう責任をもって対応していきたいと考えている。

■病院外観



■手前が燃料タンク 奥が自家発電設備



■受水槽（西館）



■受水槽（東館）



■DMAT受入対応室



■トリアージスペース



■患者受入スペース①



■患者受入スペース②



■患者受入スペース③



■備蓄倉庫



■DMAT派遣車輛



■患者搬送対応車輛

